

す

く

す

く

86号



東京都済生会中央病院附属乳児院 2024年度 第1号 2024. 4. 1発行
東京都済生会中央病院附属乳児院 院長 岡尾 良一

春の訪れを求めて、近くの公園へ子どもたちと一緒にお花見に出かけ、平年より桜の開花が遅れましたが、何とかお花見を楽しみ、子どもたちが元気に遊ぶ様子を見ることができました。

令和6年1月に創立100周年を迎えることができました。先月のニュースで出生数が過去最低となったようですが、様々な要因で家庭での養育が困難となる子どもの命を守る安全基地として乳児院の役割は大きくなっていると思われまます。

令和6年4月から改正児童福祉法が施行され、子育て支援が拡充されます。

当院では多職種やユニットカンファレンスの中で、子どもたちの発達や日々の様子を共有し、かかわり方や支援を検討しています。子どもたちのありのままの姿を受け止め、言葉にならない気持ちや感情を代弁し、応答的なかかわりを心がけ、個々に合わせた丁寧なかかわりを繰り返すことで、気持ちの切り替えもスムーズになっていくと考えています。

養育者の子どもへの想い「子どもニーズ 子どもファースト」をモットーに、子どもを第一に考えた養育に努めております。

「済生の精神」による先人たちの子どもへ想いを受け継ぎ101年目をスタートします。

日頃より乳児院の活動にご理解とご支援をいただいている関係者の皆様には、改めて感謝申し上げます。

院長 岡尾 良一



理 念

「済生の精神」に基づいた思いやりのある養育の提供を通じて社会に貢献します。
（「済生の精神」とは、分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉を差し伸べることです）

基 本 方 針

「子どもニーズ 子どもファースト」

私たちは、常に子どものことを第一に考え、子どもの目線に立ち、子どもの気持ちの代弁者として実践し、一人ひとりの子どもの最善の利益を追求します。

1. 子どもが安心できる環境の中で、個性を尊重し、愛情を注いで養育します。
2. 愛着関係を大切にし、情緒豊かな子どもに育てていきます。
3. 感動や成功体験を通し、子どもの自立心を養っていきます。
4. 子どもの成長の喜びを保護者と共有し、親子関係を大切にしながら養育します。
5. 乳児院職員として、向上心や探究心を持ち、人間性・専門性を高めていきます。



創立 100 周年 記念式典

2024年1月24日（水）に、東京都済生会中央病院 13 階ラウンジにて 100 周年記念式典を開催しました。式典では、乳児院 100 周年の映像を上映し、ご出席いただいた皆様と一緒に振り返ることができました。式典開催に当たり、プロジェクトチームを立ち上げ、100 周年記念誌の作成等準備を進めてきました。準備をする中で、改めて自分たちが何を伝えたいかを考えた時、「子どもが最優先である事」それは子どもの権利を守る事に通ずるという思いに至りました。それを表したのが「子どもニーズ 子どもファースト」という言葉です。私たちは「子ども優先の乳児院」だという事を子ども達にかかわる皆様と共有し、歩み続けてまいります。

ブランディングプロジェクト 保育士 係長 峯越 雅子



お正月・初詣

1月2日、元神明宮へ初詣に出かけました。子どもたちは自分でお賽銭を入れ、大人の真似をして手を合わせます。無事、新年のご挨拶を終えたら、次は子どもたちお待ちかねのお買い物です。お年玉を持ち、お菓子を買いに行きました。どのお菓子をしようか迷っている子もいれば、食べたいものをすぐ見つけ、カゴに入れる子もいました。おやつ時には、自分で選んだお菓子を食べて、とびきりの笑顔を見せる子どもたちでした。

保育士 中村 綾



ひなまつり会

3月5日、子どもたちの健やかな成長を願いひなまつり会が行われました。おしゃれ着に着替えた子どもたちと初節句をお祝いし、『うれしいひなまつり』を歌ったり、職員の出し物を見たり、楽しい時間を過ごしました。最後にひな人形の前で一人一人写真を撮りました。おすまし顔やにっこり笑顔など、表情豊かな様子が見られました。栄養管理室では、ひなまつりのおやつとして、菱餅に見立てた『三食ゼリー』を提供しました。季節を感じられる行事食をこれからも提供していきたいと思ひます。 調理師 藤森 一栄





各居室のエピソード



～冬～ をお届けします

たんぽぽ

子ども達は歌や絵本、制作など様々な方法で季節行事を楽しんでいます。2月の節分の時には自分たちで作った鬼の制作物に向かって、「おにはーそと！」とボールを豆に見立てて投げる豆まき遊びをしていました。はじめは鬼を怖がっていた子も、日が経つにつれ「豆ボーイ！」と鬼退治に励んでいました。

保育士 長縄 友里



ひまわり

高月齢のお子さんは、散歩前にお気に入りのニット帽を自分で選択して出発するようになりました。ひとりで歩くことができるようになったお子さんが増えたひまわりさん。公園内を楽しそうに歩き回ったり、すべり台の階段を一歩一歩足を上げてのぼれるようになったりと、日々たくさんの成長を感じています。

保育士 植田 美月



こすもす

2月に遠足で『ピュアハートキッズランド』に行きました。大きなボールプールに大興奮のAくん。最近お話しできるようになった2語文で「ボール、いっぱいね」と嬉しそうでした。お土産にはマイブームのピアノを選び、レジまで一生懸命カゴを持って行きました。帰りの車ではぐっすりと眠り、たくさん遊んで素敵な思い出になりました。

保育士 岩満 実歩



あさがお・ちゅーりっぷ

『maxell AQUA PARK SHINAGAWA』へ遠足に行きました。初めての遠足のお子さんもいてみんな少し緊張した様子でしたが、水族館に着くと暗いエリアでも怖がることなくキラキラ輝く水槽をじっと見つめ、子どもたちの目はとても輝いていました。イルカのショーではイルカのジャンプに少しびっくりした表情を浮かべながらも、釘付けでした。帰りに、それぞれお気に入りのぬいぐるみを買って帰ってきました。

保育士 山崎 友絵





ユニクロ 様
冬の衣類でお買い物会を開催していただきました



美容師 長岡 様
子どもたちのヘアカットをしてくださっています



ぐる〜ん 様



リシュモンジャパン株式会社
カルティエHR 様

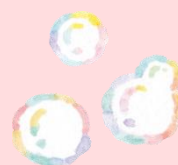
衣類への個別マーク付けやスタイの紐付け等、繕い物のご協力をしていただいております

心理士だより

乳児院でお子さんたちと過ごすようになって1年が経ちます。個人的に驚いたことは、心理士もお子さんとかっついてよいということでした。基本的に心理士は身体接触をしません。私は私、あなたはあなた、というお互いの精神・身体的な感覚を守るためですが、こども、特に赤ちゃんはその感覚はまだありません。くっついて大人と一体になり自分の不安や不快を預け、心のエネルギーを回復します。その姿を間近で感じ、くっつくことの大切さを学ぶ日々です。もちろん、成長につれ、くっつくだけでなく話す・遊ぶことで不安を解消しようと色々な心の回復方法を身に付けていきますがまずは、くっつくことで安心の感覚が持てるように心がけていきたいと感じる1年でした。



心理士 内藤 千聡



【0～3歳児の育児にお困りの方へ】

当院では育児相談を平日9～16時に受け付けています。 担当 看護師長 小泉

【創立100周年記念 寄付金のお願い】

当院はわが国初の乳児院として開院し、令和6年1月26日で100周年を迎えました。乳児院の子どもたちに天然芝生の遊び場をつくることを目的に、寄付金のご協力をお願いしています。

募集期間：令和5年7月1日～令和6年6月30日 担当 事務 竹田

上記について詳しくは右記までご連絡ください。 Tel 03-3451-8289（直通）

「すくすく 第86号」2024.4.1 発行

〈発行人〉 岡尾 良一 〈編集委員〉 小泉 菜穂子 前田 朋子 樋口 麻友子 長縄 友里